

別紙 「平成31年度 学力向上アクションプラン」

足立区立湊江小学校 学校長 向山 敦子

	新 継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 <誰が、何を、どのように>	達成確認方法	達成目標（＝数値） <いつまで・何を・どの程度>
1	改善	パワーアップタイム	全児童 漢字・計算・音読・ 作文・読書	毎週火（計算・音読） 毎週水（読書） 毎週木（漢字・音読） 毎週金（作文・音読） 始業前15分	【指導者体制】 担任 【取組のねらい・目的】 読み・書き・計算を身に付ける。 【使用教材】 漢字、計算等のプリント学習、音読、読書、短作文。 丸付けはその都度、内容によって一斉・個別と変わるが、回収、担任による確認を経て当日中に返却する。 【改善点】 漢字・計算・音読・作文に絞り、確実に実施できるよう、時程を変更した。	長期休業前に漢字・計算のミニテストを実施し、全員80%以上の正答率	1年のみ6月から。2年以上は、4月から各担任が100パーセント実施する。
2	改善	放課後補習教室 （けやき教室）	課題のある児童 週に応じて対象児童 を変える	火・木・の週2 回設定	【指導者体制】 担任＋専科＋COM教員 【取組のねらい・目的】 学力に課題のある児童の補習を行う。 【使用教材】 次へのステップ、ベーシックドリル、タマROM「学習プリント」 【改善点】 SP表分析により、つまずきをさかのぼり、演習を中心に個別指導で学力に課題のある児童の補習を行う。	1回20分以上 ×年間70回以上	1月までに実施する定着度確認テストで正答率30%未満の児童の正答率を50%に引き上げる。その他の児童は90%以上。
3	継続	サマースクール	全学年 国語・算数 各学年約10名程度	夏休み期間中の 10日 各日50分	【指導者体制】 担任＋専科＋中学生学習ボランティア 【取り組みのねらい・目的】 担任、専科による少人数指導のもと、進める。前学年、前々学年等、既習事項のつまずきを漢字プリントやベーシックドリルで確認し、書けなかった漢字、解けなかった問題の直しや、日々の授業内容で理解が完全でない（単元テストの正答率が低い）内容の補充問題を行い、苦手意識の早期解消を狙う。 【使用教材】 プリント教材	夏休み終了後、確認テストの実施	夏休み終了後の確認テストで全員の正答率の10%アップ

4	新規	保護者への啓発 及び協働の促進	全学年	通年	学習習慣の確立 ・学年×10分+10分の家庭学習時間の見守り ・家庭学習ノートの活用	保護者アンケートを 2回(7・11月)実施	2回目のアンケート実施 により、学習習慣向上率を 10%アップ
5	改善	基礎的・基本的な内 容の理解の徹底	全学年	通年	各教科の学習内容の定着 ・確認テストの実施 ・足立スタンダードに沿ったノート指導 言語活動の充実 ・国語以外でも文章を書く機会(振り返りを記入する等) を必ず設ける。 主体的・対話的で深い学びの充実 ・授業での対話的な時間の確保	区学力調査、年度末の 目標 通過率80%以上	区学力調査後に9月と1 月に確認テストを実施 各回10%アップ
6	継続	小中連携による合同 研究	全学年	通年	・合同学習指導案作成研究会(8分科会別・2回)。 ・合同研究授業(8分科会別・2回)。 ・全体協議会(2回)	小2校・中1校による 合同研究会を6回以 上実施。	予定回数の実施と全体協 議会後の自己評価率の向 上。
7	継続	教員の指導力向上	全学年	通年	・講師を招聘しての校内研究授業(3回) ・年次研修への全員参画(1~4年次) ・授業力向上研修会7回以上実施 ・足立スタンダードを基本とした授業力の向上 教科指導専門員と管理職による授業観察 ・足立スタンダード、活用力向上研修会への参加 ・区小研への全員参加	授業研究・研修会を7 回以上実施。	指導案作成、授業観察によ り授業力を評価。 年度末までに教諭層は15 回以上、主幹・主任層は3 回以上の授業観察
8	継続	体験的活動の充実	全児童	通年	・国際理解教育、キャリア教育、オリンピック・パラリンピッ ク教育の推進 ・外部人材の活用・外部機関との連携 ・伝統的文化に触れる活動 (落語・将棋・百人一首・俳句等)	各学年3回以上、学校 全体2回以上実施。	振り返りカードによる記 述評価。